

令和３年度木更津市社会教育委員会議第２回定例会 会議録

１ 会議名 令和３年度木更津市社会教育委員会議第２回定例会

２ 開催日時 令和３年１０月１４日（木）午後２時～３時４５分

３ 開催場所 木更津市立中央公民館 多目的ホール

４ 出席者名

委員：遠藤秀夫、古川哲也、森廣賢一、安藤順子、富田 浩、鶴岡久美子

鶴岡俊之、吉田裕子、伊藤素子、佐々木洋子、地曳昭裕、内田慎一郎、

石村比呂美、熊本秀樹、白石和義（１５名）

事務局：廣部昌弘教育長、秋元淳教育部長、平野義視教育部次長、

鈴木和代生涯学習課長、鈴木玲子課長補佐、安川朱里事務員（６名）

協議事項（３）説明のため出席

小高幸男文化課長、森田益央図書館長、稲葉昭智郷土博物館金のすず副館長、

水越 学中央公民館長

５ 協議事項

（１）各審議会・協議会報告について

（２）社会教育関係各課・機関の事業等について

（３）今後の社会教育委員会議での協議内容について

（４）その他

６ 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 公開・傍聴人０名

７ 資 料

令和３年度社会教育委員会議第２回定例会次第

令和３年度社会教育委員会議第２回定例会資料

第５６回千葉県社会教育振興大会開催要項

金鈴塚古墳出土品ガイドブック 煌めく金鈴塚

社教情報 No.85

8 会議の内容

事務局 ただいまより令和3年度木更津市社会教育委員会議第2回定例会を開催いたします。本日は、委員18名中、15名の出席であり、欠席は3名であります。従いまして、社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席がございますので、会議は成立しております。なお、本会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されておりますが、本日の傍聴人はおりません。以上報告いたします。

最初に内田議長からご挨拶いただきます。

内田議長 皆さんこんにちは。久しぶりに皆さんとお会いする機会が得られまして、嬉しく思っております。昨年からのコロナ禍であり皆様とお会いする機会がなく、非常に寂しい思いをしておりましたが、今回は対面会議ということで、皆様方と議論ができることを大変嬉しく思っております。

今日は、この後地曳委員から提案があるとお聞きしております。活発な議論を期待したいと思います。

熱心な討議を期待いたしまして冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。続きまして、廣部教育長よりご挨拶申し上げます。

廣部教育長 皆さんこんにちは。本日は、大変ご多用の中、令和3年度社会教育委員会議第2回定例会のご出席いただきまして誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスで閉塞感がありましたが、木更津で嬉しいニュースがございました。一つは、清見台小学校がI'm POSSIBLE アワード開催国最優秀賞を受賞しパラリンピック閉会式で表彰されたことでございます。I'm POSSIBLE アワードとは、共生社会を目指す取り組みをしましょうということで、私自身、小学生の子供たちに改めて多くのことを学ばせていただきました。全世界に木更津市を発信できたこと、大変嬉しく思いました。

もう一つは、先日岩根西中学校出身の山下さんが、ドラフトでヤクルトスワローズに1位指名されたことです。木更津市でドラフト1位指名は初めてではないかと記憶しております。

それから、一昨日この会場で、小中学生の関東大会・全国大会に出場し、全国大会でベスト8以上の成績を残した生徒たち等が市長表敬訪問に来ました。本年度は32名、走り幅跳びにおいて全国の中学校で2位の男の子、柔道での個人戦で全国で3位の女の子など、大変心強いと思いました。

話は元に戻りますけども、本日から新たな委員に加わっていただいております。委嘱状を直接お渡しすることができませんでしたが、7月1日付けで、公民館運営審議会推薦として、鶴岡委員が加わってくださいました。本市の社会教育・生涯学習の発展のためにお力をお貸しいただければと思います。よろしくお願いします。

それから、徐々にコロナも終息してきて、様々な行事も少しずつ始められるようになりました。10月20日からは、生涯学習市民公開講座のオンライン動画配信を開

始します。11月7日には生涯学習フェスティバル記念講演会があります。今年は私も大変楽しみにしているところなのですが、講師の谷畑美帆さんは、木更津市史編集委員を務められており、金鈴塚古墳を題材にした小説「鈴鳴りの彼方で」を出版されております。非常に興味深い作品となっておりますので、ぜひ委員の皆様も興味がありましたら、講演会に足を運んでいただければと思います。それにあわせて、青少年の主張大会も開催します。それから、12月には、昨年度もオンラインで実施しましたツナガルフェスを実施します。地区文化祭につきましては、ほとんどの地区において感染症の影響により中止せざるを得ませんでした。畑沢公民館、清見台公民館においては規模を縮小して展示発表を中心に開催する予定であります。社会教育委員の皆様におかれましては、ぜひ足を運んでいただけますよう、よろしくお願いいたします。

また、表彰式はこれからとなりますが、令和3年度生涯学習功労者表彰として、熊本秀樹委員、青少年相談員連絡協議会からの推薦となります森廣賢一委員が受賞されることが決定しております。また、令和3年度木更津市教育功労者表彰を内田慎一郎議長、石村比呂美委員が受賞されることとなっております。この場をお借りして、これまでの本市教育にご尽力頂きましたことへの感謝を申し上げますと共に、お祝いの方々皆様にご報告させていただきます。

本日の会議では、このコロナ禍での社会教育関係事業の動向と今後の取り組みについて、関係各課、機関の長よりご説明させていただき、また、今後の社会教育委員会協議の協議内容についてご協議いただきますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。

それでは、本日もどうぞ、よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。協議に入る前に資料の確認をお願いいたします。

確認

では、今後の進行につきましては、木更津市社会教育委員会協議運営規則第2条第4項により議長をお願いいたします。内田議長よろしくお願いいたします。

内田議長

それでは、協議事項（1）各審議会・協議会の報告です。各審議会、協議会に委員としてご出席いただいている皆さんから、報告事項があればよろしくお願いします。森廣委員お願いします。

森廣委員

6月30日に第1回木更津市青少年問題協議会が開催されました。会長挨拶から始まりまして、議事は、令和3年度青少年に関わる事業計画についてでございました。生涯学習課、まなび支援センター、子育て支援課、こども保育課、各団体機関より今年の活動計画が述べられました。

内田議長

ありがとうございます。安藤委員お願いします。

安藤副議長

書面会議のため特に報告事項はありません。

内田議長

ありがとうございます。白石委員お願いします。

白石副議長

アクアコイン普及促進推進協議会が5月31日に開催しました。構成は、木更津市の商工会議所、商店街、観光協会、ジェイコム、かずさFM、福祉協議会、区長会など総勢17名のメンバーでございます。アクアコインは、地域の中での消費活動を高め、資金の地域内における循環を促進するとともに、ボランティア活動等に対しアクアコインポイントを提供し、地域における支え合いを促進することにより、地域コミュニティの活性化を推進しております。先日、生涯学習課から皆さんにポイント20%

還元キャンペーンのリーフレットを配布いたしました。全国的にもアクアコインというのは珍しい取り組みとなっております。木更津市の住民票の手数料もアクアコインで払えます。またチャージの問題がいろいろありましたが、今回セブンイレブンでもチャージができるようになりました。木更津市をこれから地産地消で盛り上げていこうということです、一応ご報告させていただきます。

内田議長

ありがとうございます。

続きまして、協議事項（２）「社会教育関係各課・機関の事業等について」です。各担当課より説明をお願いします。

各課長、館長等説明

①生涯学習課 ②文化課 ③図書館 ④金のすず ⑤中央公民館

内田議長

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問がありますでしょうか。

地曳委員をお願いします。

地曳委員

文化課のミニアートコーナーが、中心市街地の活性化事業の一環であると聞きました。このミニアートコーナーのようなイベントや企画があれば教えてください。

文化課長

現在は、ミニアートコーナーのみ、イベントとして開催しているものとなっております。

内田議長

ありがとうございます。熊本委員おねがいします。

熊本委員

郷土博物館金のすずは、安西家と連携したイベントなどの計画はありますか。

もう一つは、先ほどの説明では博物館の来館者が多いと感じましたが、市外の方が多いのですか。

金のすず副館長 安西家との連携ですが、現在小学３年生が昔の暮らしの体験学習を、ガイドボランティアの方と一緒にしています。コロナの感染防止対策をしながら子どもたちの学習を支援しています。

来館者についてですが、来館者対象にアンケートをとっており、４４％が木更津市内在住者でございます。千葉県内在住者が８４％で県外が約１０％という結果でした。

内田議長

ありがとうございます。他にご質問等ありますか。

次に進みます。協議事項（２）今後の社会教育委員会議での協議内容についてです。まず、地曳委員より事前に提案がありましたので、発言をお願いいたします。

地曳委員

第１回目の会議で、従前の社会教育委員会議とは違って、提案型の社会教育委員会議であるべきだということを、自己紹介の時に言ったような記憶があります。ここに「社教情報」という冊子がありますが、これを読んでいると、全国各地の社会教育委員の方々は、会議だけでなく自分たちで調査したり研究したりして活発に活動しているということが伺えます。

社会教育委員として大きなテーマを設けていきたいと思っています。例えば、老人の豊かな知識を若い世代に繋いでいきたいというテーマを設けて、社会教育委員会議を今後進めていきたいと思っています。

内田議長

ありがとうございました。地曳委員からご提案がありました。前回の会議で、皆さんには次の定例会までに自分の提案を考えていただきたいと話したと思います。なかなか皆さんと議論する場がなかったため、まずは地曳委員から投げかけていただきました。この提案について皆様方からご意見或いはご質問等いただきたいと思います。そして、提案型の社会教育委員会議というものを、皆様方で一緒に共有できたらと考えておりますので、どうぞ、ご意見をお寄せいただければと思います。熊本委員お願

いします。

熊本委員 地曳委員の提案を読ませていただいて、非常に社会の基本的なことを提起していただいたと感じました。私はそこで考えました、社会教育って一体何だろう、と。私たちはこうしていつも会議を行っていますが、自分自身、社会教育の目指しているものはなんだろうかと考えています。最近、社会教育というよりは、生涯学習といった言い方になっているかと思いますが、社会教育は、何を目指しているのかなと思います。ただ、いろいろな講座を開催して、知識を得るだけではない、と考えております。

内田議長 ありがとうございます。古川委員お願いします。

古川委員 今年から社会教育委員を拝命いたしました古川でございます、よろしくお願い申し上げます。私も、社会教育委員会というのがどういうものなのか全く存じ上げない状態で辞令交付を前回受けましたが、今回お送りいただいたこの資料で、地曳委員からの提案というのを拝見いたしました。まず基本的には、社会教育委員会としての方向性、或いは社会教育委員会を目指すものということを整理して、例えばこの木更津の我々のこの会議の中で、コンセンサスが得られればと思います。その中で提案型の社会教育委員会あり方ということについてきちんと議論を重ねて、より具体的な安心安全のまちづくりやコミュニティの形成に、一つでも寄与できればいいのかなというふうに考えた次第でございます。

内田議長 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

まず皆さんから少し意見を聞いて、地曳委員のご提案、熊本委員そして古川委員の話がありましたように、社会教育としてどのようなことを取り組んでいったらいいか、最終的に地曳委員の提案の中にも具体的な提案もありますが、まず自分たちの位置付けを把握した中で、最終的な提案型に至るという形になるかと思います。皆さん方からまずご意見をいただいたなかで、先に進めたいと思っております。忌憚のない意見をいただければと思います。富田委員お願いします。

富田委員 我々が教育委員会職員からの報告を聞いてテーマを決めていくわけですが、1年間のテーマなのか、あるいはある程度長期間の、最低でも任期の2年間のテーマでやるのかどうか。また、まず我々が勉強してから、講師のお話を聞くことや、活動されている方の話を聞いて、活動を始めるのか。それとも、我々が何かしらの情報収集をしてから結論を作ってそれを発信するところまで持っていくのかどうか。どのような形でやったらいいのかと思いました。

内田議長 貴重なご意見ありがとうございます。鶴岡俊之委員お願いします。

鶴岡（俊）委員 私も本当に今改めて社会教育を考えましたが、木更津市民が、健康で文化的な充実した人生を送るために死ぬまで学び続けること、それが社会教育だと考えているので、地域とともに、まさに地曳委員がおっしゃったように、元気なお年寄りを増やすことが大事なのではないかと考えます。元気な状態で、死ぬまで学び続けることができる環境を整える、或いは、一緒に学んでいく。地域の中で、地域づくりや地域の人材育成など、各地域の公民館を舞台に、ずっと健康で文化的な、学び続けることができる環境を整えることなのかなと思いました。健康という部分は、ご提案いただいた、木更津ならではのお年寄り体操を作れたら、すごく面白いかなと思います。そういうことを公民館を中心として、健康で文化的な生活を、最後までやっていきたいと思っています。

内田議長 ありがとうございます。伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員 私も社会教育委員は3年目ですが、最初は社会教育についてわからない状態でした。

今私は子育て世代の真っ只中にいるので、子育ての観点から見ると、学校で受ける教育以外のものがすべて社会教育だと思います。そういった中で私の立場で言いますと、子どもが学校以外でどう過ごすかが大きな問題だといつも感じています。いい場所がたくさんあったらいいなと本当に思っていて、その一環として生涯学習課の管轄である放課後子ども教室の設立に関わり始めたのですが、今、賛同得られる世代がどうしても保護者世代ばかりで本当は、先ほどから話題となっている元気なお年寄りの方達をいっぱい巻き込んで子どもを見て欲しいと、すごく切実に思っていて、その部分をどう結びつけていくのが良いのか、うまいやり方はないのか、私自身がいつも学びたいと思っています。

内田議長 ありがとうございます。皆さんからご発言を、できれば一言ずついただければと思います。吉田委員いかがですか。

吉田委員 社会教育委員会議の提案を行政に伝えても後回しになっている感じがあるのですが、社会教育委員が行政に対して疑問に思っていることを提案できたらいいなと思っています。最近、やっとコロナが落ち着き、親子活動が始まりましたが、小さいお子さんを持つお母さんたちは、地域の方たちと触れ合いたい気持ちはあっても、なかなか情報が入ってこないとおっしゃっていて不安になっているので、情報をいかに伝えていくのが大切だと思いました。社会教育委員会議としては、何か会議の中で今回はこれについて皆さんで話しましょう、という感じの会議が良いのではないかと思います。

内田議長 ありがとうございます。佐々木さんお願いします。

佐々木委員 前回参加させていただいて、各課からご説明いただいて、私は何かできるだろうと少し不安になりました。今回地曳委員から話があり、日常生活の中で感じていることは、今私は子育て支援課で発達相談員として1歳半健診や3歳半健診を担当していますが、子育ての不安だったり、発育の不安だったりを目にする機会が多く、そのお母さんたちの行き場がない、ということが課題だと感じています。自分から同じ立場の親子に声をかけることができる親子は良いほうで、そういうコミュニケーションを苦手とする方がとても多くいます。ですから、例えば、公民館で気軽に親子で行って遊ばせて、交流ができたり活動ができればいいだろうと常に感じています。ここで、何ができるのか、生涯学習課や公民館と、子育て支援課とかいろんな横の連携とかも必要になりますが、何ができるかわからないけれども、普段思うこと、提案や、話し合っていくとことが大切だと感じています。

内田議長 ご意見ということで受けとめました。森廣委員お願いします。

森廣委員 話を聞いて、社会教育の中でいろいろな組織が多分ある中で、その組織と組織をつないでいき、地域でそれぞれが活動しているので、他の組織がどんな活動しているかわからないのが現状なので、年配の方々の活動、子育て支援の活動、コミュニケーションの活動がうまく繋がっていくような、運営の手助けが必要というか、社会教育をする場を組み立てていくことができればいいのかなと思いました。

内田議長 ありがとうございます。遠藤委員お願いします。

遠藤委員 住んでいるところは君津ですが、木更津市はかなり進んでいるということがまず感想です。学校という立場からですが、コロナ禍で合唱や体育祭などの体験活動がかなり制限されています。修学旅行もいけない状況に追い込まれております。そのような中で、体験活動というのは子どもたちにとって非常に大切な心の成長に繋がってくる

と考えていますので、私は岩根地区では、ここに安藤委員がいますが、花いっぱい運動を今年はやってみようとか、ゴミゼロ運動も今年は少し企画をしよう、とか、地域の方と連携しながら、地域を作り上げていきたいと考えています。岩根地区は、防災について非常に積極的で、すごいなと私も学ばせていただいております。少しずつ足を運んでは、コミュニティを広げていこうと考えています。また、公民館の事業で、校長の立場で、お母さん方の悩みに寄り添うという場で、子供たちの進路を支えるためにはどういうことをすればいいんだっていう話を、1 時間半ほどお話をしました。お母さん方に寄り添って、こういう子育てをすると子どもが安心するじゃないですかという、日頃の悩みのようなものを解決できるような形になったかと思います。学校では、文科省から出されている新学習指導要領において、自ら課題を見つけてそれを解決する能力を子どもたちに身につけさせていく、となっております。これは生涯学び続けるものということが含まれています。ですので、そのようなことが地域の中で、継続してできるようにするためにはどうすればいいんだろうと考えていけばいいのかなとは思っています。今までたくさん話が出ていますが、そのコミュニティをどう作っていったり、どう繋げていくかはやはり難しいことなので、それぞれ面白い、興味があるところがいろいろ違うところを横に繋げていくにはどうすればいいのかなということで、今ちょっと考えております。

内田議長 ありがとうございます。鶴岡久美子委員お願いします。

鶴岡（久）委員 私も今年から初めてここに参加させていただきました。私は民生委員もやっていますが、地曳委員の提案の中に体操のことに触れられていたかと思います。民生委員の中でも、体操を公民館等でやっていますが、きっと皆さんのところまではまだ認知されてないではないかと思いました。なので、横の繋がりをもう少し密にすると、ある程度解決するのではないかと思います。私は社会教育委員 1 年目でこの社会教育委員としての問題点がどこにあるのか、問題するところはどこなのかということがまだわからないので、提案等そういう形はとれないのですが、何か問題意識を持ってできればいいかなとは思っております。

内田議長 ありがとうございます。安藤副議長お願いします。

安藤副議長 皆様の話を聞き、いろいろ考えることがありました。まず社会教育についてですが、私の解釈では、学校教育以外は人生すべてが社会教育だと思っています。私は青少年補導員としてこちらの場に何年かお世話になっております。今現在なかなかパトロールができませんので、個人的に参加している子供食堂の運営とか、あと青少年補導員ですとか、保護司とか、いろいろな立場を地域でいただきまして、地域での活動を通して自分が学んでいることが多いのかなと感じています。ご提案の中で、お年寄りについて述べられておりますけれども、確かに岩根地区もお年寄りが多いところなので、この地曳委員のご提案、すごくいいなと思いました。また主任児童委員で会議に出席すると、ふまねっと体操とか、あと真舟の方でも体操をやっているので、地曳委員のこの提案は、今、細々とかもしれませんが、みんなどっかでは活動しているので、それをみんな共通理解で繋げれば、すぐ解決すると思います。あとはその情報を共有するということが大事だと思いました。

2 番の、おやじ、おふくろの小言（子育て版）の編集は、どれだけ子育てしている人に伝わるかは私たちの技量に関わりますが、確かに子育てを経験してわかることはあって、子育ては永遠ではないと気づくのは、やっぱ子育て経験を積んでからだと思

います。確かにいい観点だと思うので、具体的に社会教育委員で勉強会とか開きたいです。それぞれの意見を具体的にどうするか、話を進めていけたら良いなと思います。私が一番大事にしているのは、どんな活動でも、その人が必要とされていると感じるような自己肯定感が感じられるような地域にしたい、ということです。ただ受け身だけではなくて、社会教育委員として何ができるかという意味での地曳委員の提案、私も賛同したいと思います。

内田議長 富田委員をお願いします。

富田委員 皆さんの発表を聞きながら、私も自分なりに考えました。社会教育また生涯学習というのは、個人で、自分の思いで勉強していけばそれでもいいのですが、今ここにいる我々は委員ですので、あくまでも我々の勉強したものを木更津市に落とし込まなければいけないと思いますので、まず、それぞれの活動を見学して、今の木更津市がどういう問題を抱えているのか、木更津市の市民はどのようにしているのか知るのがいいのかなと思います。放課後子ども教室であるとか、シニアクラブを見学するとか。また、青少年問題協議会を見学して我々も情報を知り得るということも一つの方法かなと思います。

内田議長 ありがとうございます。白石副議長をお願いします。

白石副議長 先ほどから社会教育とは何かということを議論されています。この会議は各団体の代表者が出席していますが、それぞれの各団体の活動がわからない。なので、課題とか困っていること、そういうのを、自分たちが実際に活動会場に行って把握しよう、横の繋がりを作っていきたいという志があります。また、若い世代が退職して、山があって海がある木更津市は、生活環境としては非常にいいところになっております。ただ新しく住まれた方に、木更津はどうですかと聞くと、初めて来るとどこに行っていかわからないとか、相談をする場所がよくわからないとか、そういう課題がありまして、社会教育委員としてその場に行って皆さんと議論をする場を設けたいと思っております。また富田委員が言われたように、自分たちも活動会場に行って、実際に目で見て、話し合うとより良い協議ができると思いますので、そちらを目指していきたいと思います。あと子育てに関してですが、3年ぐらい前に、社会教育委員の研修として埼玉県に見学に行きました。埼玉県では、小学校と公民館と図書館が一体化しており、お母さんたちが迎えに行くときは公民館で、お年寄りも公民館に行って、小学生の子どもたちを面倒みてくれて、子育て世代としては本当に良い環境だなというのは、私たち参加した人間は、同じ感想を持ちました。ただ木更津市でそれができるかというのが難しい現状もあるでしょう。だから自分たちも、機会があれば県外とかいろいろなところに行って、皆さんに周知しながら、より良い社会教育として、範囲が広がりますが、できることを、徐々に一つ一つやっていけばいいかなと思います。

内田議長 今皆さんから一言ずつ意見を聞いたところですが、地曳委員がこういう形で提案していただいたことによって、皆さん方からご意見をいただきました。そんな中で、ある程度提案型の社会教育委員会にしたいという思いは、皆さん方の発言を聞いて、同じだなと感じました。その中でいろいろ課題が出てきました。横の繋がりがなく皆さんに情報が伝わらない。我々が自己研修をすることによって、それがコミュニティのためになるとか、この地域のためになるというような、そういったところを通じて、研修を生かしていき、それをまちづくり等々、或いは地域のコミュニティ等に生かしていくというような、話がありました。皆様方から出された提案を考えると、やはり

ある程度テーマを絞って、我々から投げかけるような社会教育委員会議にしたいと考えております。受動的ではなく自主的に活動しなければいけないのかなということを、改めて皆さん方のお言葉から感じました。次回はある程度テーマを考えました中で、木更津市を動かすというところを考えながら活動してみたいと思います。この辺は事務局と相談して、次回までには、いろいろと考えて皆様方に事前に、ご通知申し上げて会議を開きたいと思います。その際、先ほど富田委員からいただきましたご意見等も参考にさせていただきまして、我々も動いてみたいというふうに考えております。最後にせっかくご提案いただきました地曳委員から一言、お言葉をちょうだいして、この議論は終わりたいと思います。

地曳委員 内田議長は、次回の会議までに事務局と今後のことを調整しますとありましたが、私は、どういう形がいいのかわかりませんが、例えば、任意で小委員会を作って皆さんに投げかけるというやり方がいいなと思いました。

内田議長 ありがとうございます。今後考慮させていただきまして先に進めたいと思います。皆様方からご意見ちょうだいいたしましたのでこの議論については、終わりにしてよろしいでしょうか。

質問等は、以上とさせていただきます。続いて（４）その他ですが何かありますか。

事務局説明

内田議長 他にないようでしたら、これで協議を終了いたします。

事務局 それでは令和３年度社会教育委員会議第２回定例会を終了いたします。